

リーダーシップと指導者の条件

日本ではリーダーに関する本と云えば、一般に、企業創業者や政府、軍隊のトップの成功や失敗談であり、理論書はテキストを含め、各著者の好み、理論分野をベースにしており、その幅は狭く取り上げられる事例も古いものが多い。大学教育でも、このような成功失敗談を経営学の授業の中で事例として取り上げることは多いが、独立した体系的なリーダーシップ理論の教育は、まだ十分に浸透していない。これに対して米国では、経営学、社会学、心理学などの学際的理論を取り入れたリーダーシップ研究が従来から盛んで、そこでの研究対象は必ずしも経営のトップだけではなく、Managerすなわち一つの組織単位を束ねる経営管理責任者の行動を分析し理論化している。それは実践的な内容で、MBA教育では専門領域の一つとして確立し、将来の経営管理層に就く予備軍に必須の学問となつていく。

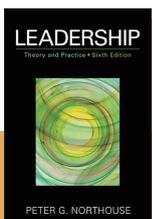
リーダーシップにはさまざまな形があり、普通の人もさまざまな経験を経てリーダーになることができる。そのようなダイナミックな過程に関する

理論を学んでおくと、日本の組織人はもっと活躍でき、総体として組織のパフォーマンスもより良いものになるのではないだろうか。グローバル化が進む現代にあつて、このような世界のスタンダードの理論を、その裏付けとなる事例とともに理解しておく必要が、否応なく高まっているのである。そのためには米国の代表的なテキストに目を通すのが有用だ。それらは、実証研究に基づく理論を、さまざまな事例を交えてバランスよく網羅的にかつ理解しやすくまとめており、この分野に興味を持つ人々は、これらの一つを座右に置き、必要に応じて目次と索引を活用し辞書のように使うことがお勧めだ。

①は、学部レベルの学生でもわかるようによくまとまった、六版を重ねる定評のあるテキストで、歴史的に確立した理論から、最近の変革型リーダー、サーバント・リーダー、女性とリーダーシップ、リーダーの倫理などの理論と実例が過不足なく程よい分量で説明されている。各章を終える読者のリーダー度を測る設問もあり、自学自習に向いている。②は、①と同様に八版を重ねるMBA級の、少し程度が高いテキストと位置付けられる。ここでも、エンパワー・リーダー

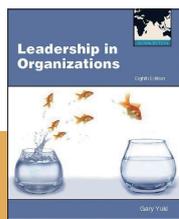
シップやチーム・リーダーシップ、フローワーシップなどの最近の研究が反映され、理論もよりダイナミックなものに移行しており、女性リーダーや多文化環境のリーダー、リーダーの倫理などの問題の最新の研究成果が要領よく示される。英語表現も比較的良好で、興味がある項目に目を通して置き、興味がある項目に目を通して置くと、日頃組織の中でのリーダーシップの問題に悩む皆さんに、腑に落ちる理論に依拠した、良いヒントを与えてくれるのではないだろうか。

さて、日本のリーダーシップに関する本であるが、大きな本屋に行くとも一面にリーダーシップ関連の本が山ほど並んでいるが、前述の理由で教科書や概説書でお勧めできるものは少ない。最近本屋をいくつか回って良い本がないか見ていたところ、③が目についた。これは、松下幸之助とPHP研究所が一九七五年にまとめた、実践から生まれた指導者論である。そこに書かれていることが、米国のテキストに書かれている理論の多くをカバーしていることには驚かされる。幸いに手に入りやすい新書版で再刊されたので、古い話と馬鹿にしないで、米国のテキストとともに皆さんにぜひ目を通されることをお勧めする。



① Leadership: Theory and Practice (6th edition)

Peter G. Northouse
SAGE Publications, 2013



① Leadership in Organizations (8th edition)

Gary A. Yukl
Pearson Education, 2012



③ 指導者の条件

松下幸之助
PHP 研究所
2014年3月